

事務事業名	藤沢地区まちづくり事業費										担当課	部課名	生涯学習部藤沢公民館			
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	12	細目	002	説明	12	課等の長	井出 祥子	電話	6737

1. 事業概要

事業開始年度	平成 23 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	藤沢地区の地域の特性を生かしたまちづくりを推進するため「藤沢地区郷土づくり推進会議」において検討している地域課題の解決を図り、住みよいまちづくりを実現する。						
事業目的及び必要性	地域まちづくりのテーマ「歴史と文化が息づく、湘南藤沢の都心部拠点」を実現するため、地域の特性を生かしたまちづくり事業を進める必要がある。						
対象	1. 個人	市民(藤沢地区)				47,013 人	
根拠法令等	その他(要綱等) 藤沢市郷土づくり推進会議設置要綱						

藤沢市市政運営の総合指針2024及び長期的な視点(SDGsの視点)	
まちづくりコンセプト	重点施策名
<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input checked="" type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢 (その理由) 地域課題について地域住民と行政が協働で取り組むことにより、郷土愛あふれるまちづくりが推進され、多くの人がまちづくりに関わる地域が形成される。	コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進
	指針体系コード
	2-3-131
2030年又は事業終了時の望ましい姿	その他の計画との関連
地域課題の解決と地域活性化を図るため、郷土づくり推進会議で企画した事業について、地域住民が理解・賛同し、地域が主体となって実施運営できる体制が構築されている。	
	貢献する主なSDGsのゴール
	4 質の高い教育をみんなに
	11 住み続けられるまちづくりを
	17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」				
市民意識調査における質問項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.91 点	2.88 点	2.89 点	2.84 点
市民主体のまちづくり活動	3.07 点	2.98 点	3.03 点	3.05 点

令和3年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	需用費	143 千円	子ども向け藤沢宿紹介冊子「藤沢宿通行手形」の作成
	使用料及び賃借料	1,254 千円	トランスボックス使用料
1,697 千円	負担金補助及び交付金	300 千円	地域まちづくり事業補助金
【参考】 令和4年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	報償費	255 千円	中学生対象の認知症VR体験会・講師謝礼
	需用費	601 千円	藤沢宿紹介冊子「歩いて見よう藤沢宿」改訂版等の作成
2,610 千円	使用料及び賃借料	1,254 千円	トランスボックス使用料
	負担金補助及び交付金	500 千円	地域まちづくり事業補助金

2. 事務事業に関わる職員数(任用形態別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常時勤務職員※	0.70人工	0.70人工	1.30人工	1.52人工
短時間勤務職員(再任用・任期)	0.00人工	0.00人工	0.00人工	0.00人工
非常勤職員	0.00人工	0.00人工		
合計	0.70人工	0.70人工	1.30人工	1.52人工
※再任用・任期付(フルタイム勤務)を含み、会計年度(フルタイム勤務)を除く				
会計年度任用職員(配置数)			0.00人	0.20人

3. 事業実施内容・成果

令和3年度事業実施内容		①藤沢宿活性化事業：藤沢宿の伝承・継承を目的として、地域の未来を担う子どもたちに藤沢宿に関心を持ってもらうために、子ども向け藤沢宿紹介冊子「藤沢宿通行手形」の改訂・増刷を行い、地区内5小学校の4年生・5年生に配布した。また、歴史的な街なみを落書き等から守るために実施したトランスボックスラッピングの維持管理や、藤沢宿の歴史的資源を活用した地域イベントを実施する活動団体の支援を行った。 ②子ども・高齢者の見守り活動事業：令和2年度に作成し、地区内の小学校等に配布した「藤沢地区交通安全マップ」について、各施設での活用状況等に関するアンケート調査を実施し、集計結果をフィードバックすることにより、交通安全に関する注意喚起及び意識啓発を図り、子どもの見守り活動につなげた。					
成果目標	指標名	単位	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	備考
	誇りと愛着を持てるまちづくりに寄与する事業実施数(累計)	事業	28	29	33	35	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	備考
	着手事業数	事業	2	2	2	1	
	数値で表せない効果 地区内の歴史的資源を活用したイベント等を実施したことにより、地区内を訪れる観光客等が増えるとともに、郷土に関心を寄せる市民が増えた。						
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	誇りと愛着を持てるまちづくりに寄与する事業実施数(累計)	事業	30	32	34	35	
	数値で表せない効果 地区内の歴史的資源を活用したイベント等を実施したことにより、地区内を訪れる観光客等が増えるとともに、郷土に関心を寄せる市民が増えた。						

4. コスト分析

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
コスト	行政費用(フルコスト) A	8,259	7,702	14,574	17,590
	(1)現金を伴う支出 (千円)	8,334	7,696	12,767	16,925
	事業費(支出済額)	1,589	893	1,828	1,697
	償還金利息	0	0	0	0
	人件費合計(①+②+③)	6,745	6,803	10,939	15,228
	①常時勤務職員等の給与等	6,417	6,399	10,236	14,030
	②会計年度任用職員の報酬等	0	0	0	562
	③退職金相当額	328	404	703	635
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-75	6	1,807	665
	①減価償却費	0	0	0	0
	②退職給与引当金繰入額	-75	6	1,807	665
	③不納欠損額	0	0	0	0
	④その他( )	0	0	0	0
	(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0
収入未済増減額	0	0	0	0	
行政収益(事業収入) B	0	0	0	0	
(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	0	
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0	
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0	
③国庫支出金	0	0	0	0	
④県支出金	0	0	0	0	
⑤その他( )	0	0	0	0	
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0	
収入未済増減額	0	0	0	0	
収支差額(純費用)A-B E	8,259	7,702	14,574	17,590	
分析指標	項目	2	2	2	1
	誇りと愛着を持てるまちづくりに寄与する事業実施数 F	単位 事業	単位 事業	単位 事業	単位 事業
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	4,129,500.00	3,851,000.00	7,287,000.00	17,589,888.13
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	19.24 429,317	17.79 433,060	33.49 435,121	40.07 438,968
	受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.00	0.00	0.00	0.00

※1 事業費(支出済額)・・・令和元年度以前の事業費は、支出済額から非常勤報酬額(「②会計年度任用職員給与合計」欄の数値)を除いた額

※2 常時勤務職員等の給与等・・・任用形態別の平均給与に人工数を乗算算出

※3 会計年度任用職員の報酬等・・・令和元年度以前の数値は、非常勤職員報酬額を示すもの

※4 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていく上での課題と課題解決の取組

(1) 令和2年度末時点の課題	①地区内小学校と連携し、小学生を対象にした子ども向け藤沢宿紹介冊子を作成し配布する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業中止となったことから、再実施についての検討が課題である。②地域イベントの支援において、補助対象事業を実施する団体は、現在「旧東海道藤沢宿まちそだて隊」の一団体のみであり、また脆弱な財務状況であることから、このままではこれまで継続してきた「藤沢宿まつり」と同様の規模のまつりの開催は困難である。
(2) (1)解決のための令和3年度の取組	①新型コロナウイルス感染症拡大の社会的な状況が改善してきた令和3年度末に、子ども向け藤沢宿紹介冊子「藤沢宿通行手形」を、地区内の5小学校4年生・5年生に配布した。②藤沢宿PRと地域活性化につながる地域イベントを継続的に実施できるように、「旧東海道藤沢宿まちそだて隊」に対し、主催事業である「藤沢宿まつり」の企画運営について支援を行った。
(3) 令和3年度末時点の課題	①小中学校長と地域各団体の代表との情報交換会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、対面では実施することができず、書面で学校側から地域に対する意見の聞き取りを行った。対面で直接様々な意見交換を行うことで、事業に関するより良いアイデア等の集約が期待できることから、実施方法についての検討が課題である。②藤沢地区郷土づくり推進会議として、藤沢宿活性化に関する政策提言を提出した。担当部局とともに提言内容の実現に向けた更なる協議が必要である。
(4) (3)解決のための今後の取組	①新型コロナウイルス感染症拡大の社会的な状況を見ながら、令和4年度事業として、対面での情報交換会を実施していく。②藤沢地区郷土づくり推進会議から提出した政策提言に対する市からの回答に基づき、藤沢宿活性化に向けた更なる取組を進めていく。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠		
	<input type="radio"/>	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)		
	<input type="radio"/>	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間		
	<input type="radio"/>	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和3年度支出済額	
		<input type="radio"/>	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	
		<input type="radio"/>	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合			
<input type="radio"/>		ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上	

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
1. 市民等サービス	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	民間主催の地域イベント中止等の影響により、藤沢宿PR事業として連携できる機会が減少した。また、多くの自治会町内会、地域団体において、構成員の高齢化と担い手不足という問題がある。地域の絆やコミュニティの必要性を高め、現役世代の地域まちづくり活動への参加意欲の向上につなげるなど、地域共生社会の実現への取組が求められる。	
他市等の事例	他市においても、自治会町内会をはじめとした各種団体が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、高齢者の見守りや防災訓練など住民同士のつながりを深める交流を行い、地域のまちづくり活動に取り組んでいる。	
市民ニーズ	把握方法	①地区全体集会 ②まちづくり懇談会 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地区全体集会及びまちづくり懇談会を中止した。
	把握内容	
	対応等	具体的な意見集約ができなかったため、令和4年度に検討していく。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	藤沢地区は、市の行政拠点としての位置付けとともに景観モデル地区である「旧東海道藤沢宿」のにぎわい創出や地域経済活性化を推進する役割を担っている。藤沢宿の伝承・継承を目的として、地域の未来を担う子どもたちに藤沢宿に関心を持ってもらうために、子ども向け藤沢宿紹介冊子「藤沢宿通行手形」を地区内5小学校の4年生・5年生に配布し、また、藤沢宿の歴史的資源を活用した地域イベントを実施する活動団体の支援等を行うことで、コロナ禍における藤沢宿の認知度向上に努めた。さらに、藤沢地区郷土づくり推進会議として、藤沢宿活性化に関する政策提言をまとめ提出したことで、今後の藤沢地区のまちづくりについて、一定の方向性を示すことができた。	
今後の方針	まちづくりテーマ	② 健康で豊かな長寿社会をつくる
	事業の方向性	現状維持
	藤沢宿のPRと地域活性化につながる事業の一つとして、旧東海道藤沢宿まちそだて隊に対し、主催事業である藤沢宿まつりの企画運営について引き続き支援を行う。また、藤沢地区郷土づくり推進会議の活動部会とともに、中学生向けのVR体験型認知症サポーター養成講座を継続して実施し、高齢者の見守り活動につなげることで、将来的な地域共生社会の実現に向けた取組を推進する。さらに、藤沢地区郷土づくり推進会議から提出した政策提言に対する市からの回答に基づいて、藤沢宿活性化に向けた更なる取組を進める。	

9. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	板垣 朋彦	確認日	2022/9/2
----	-------	----	-------	-----	----------